

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 6 月 20 日現在

機関番号：32685

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2011～2014

課題番号：23531311

研究課題名(和文)社会性の発達を促す子育て支援における行動コンサルテーションの効果

研究課題名(英文) Effects of behavior consultation as supports to enhance social development of children

研究代表者

竹内 康二 (Takeuchi, Koji)

明星大学・人文学部・准教授

研究者番号：00400656

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,900,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、自閉症スペクトラム障害を含む社会性の発達に偏りのある子どもの「子育て支援」の方法として、保護者ならびに子どもに関わる支援者(学生セラピストや学校教員等)に対して「行動コンサルテーション」を行い、その効果を客観的、科学的に評価した。その結果、子どもの問題行動が減少し、保護者の精神健康度とストレスが改善し、学生セラピストの技術と知識が向上し、学校教員の児童に対する分析の視点が変容した。

研究成果の概要(英文)：This study was to evaluate several effects of behavioral consultation method for parents and supporters (student therapists and school teachers) to promote a sociality of children with autistic spectrum disorder. As results, inappropriate behaviors of children decreased, the mental health and stress of parents was improved, the skills and the knowledge of students were advanced, and the view of the teachers for their children positively changed.

研究分野：応用行動分析学

キーワード：子育て支援 コンサルテーション 発達障害

1. 研究開始当初の背景

(1) 研究の必要性：社会性の発達障害である自閉症スペクトラム障害のある乳幼児には、認知、言語、対人関係など心理的機能の広い範囲での障害があり、無発語の重度の自閉症児から高機能自閉症児まで障害の質と程度も幅広い。疫学研究では、米国で100名に1名(U.S.CDCP,2007)、わが国では小規模調査ではあるが110名に1名(Honda, et al., 2005)というデータが示されている。その原因は脳の広範囲にわたる発育不全であり、脳機能上の兆候は生後6ヶ月から、行動上の兆候は1歳から1歳6ヶ月に見られるため、早期発見と早期支援が重要である。早期発見直後の段階で、家庭内でのポジティブな対人関係が確立され、適切なコミュニケーション支援が可能となれば、後の発達を大きく促進できるものと思われる。このような多くの乳幼児が支援を必要としているにもかかわらず、社会性障害への専門的支援を行える専門家は大変少ないのが現状である。社会性の障害が重篤化する前に、適切な支援を、家庭と専門機関が連携しながら進めていく予防的体制をつくり、その効果を客観的、科学的に評価する研究を進める事が喫緊の課題であった。

(2) 研究動向：わが国では、2004年に発達障害者支援法が施行され、また、各市町村において発達支援体制の構築が急がれている一方で、平成19年度より特別支援教育が本格的に始まり、学校教育における社会性障害のある子どもへの支援体制が新たな展開を迎えている。このような社会的基盤づくりを進めるにあたって、どのような支援方法が、社会性の発達を促進するかに関する実証研究が必要である。わが国では、保護者が医療機関を受診し、診断にいたる場合と、1歳6ヶ月健診、3歳児健診において、支援の必要性が見出される場合がある。ただし、この年齢であると確定診断が難しいこと、保護者の障害児の受容も不安定であることも事実である。この点から、確定診断とは独立に、発見直後からの保護者と乳幼児との相互関係を改善するための「子育て支援」が必要である。その有効な方法として、「行動コンサルテーション」がある。行動コンサルテーションとは、コンサルタントとしての専門家と実際に子どもに関わる支援者や保護者が行動と学習の原理・手法を用いて協働し、その問題の解決を効果的に図っていくことである(加藤・大石, 2004)。こうした行動コンサルテーションの方法は、日本の特別支援教育を進めるための方法論として注目を浴びてきているが、子育て支援に用いた研究は非常に少なかった。

2. 研究の目的

本研究では、自閉性障害やアスペルガー障害を含む社会性の発達に偏りのある子ども

の「子育て支援」の方法として、保護者ならびに子どもに関わる支援者(学生セラピストと学校教員等)に対して「行動コンサルテーション」を行い、その効果を客観的、科学的に評価することを目的とする。

特に、大人と子どもの相互作用の改善に焦点を当てた行動コンサルテーションが子育てにどのような影響を持つのか、乳幼児や児童、生徒において、保護者や学生セラピスト等への行動コンサルテーションを通して行われる発達支援がどのような効果を持つのか、特別支援学校の教員に対するコンサルテーションの効果は参加者の属性や子どもの行動特徴によってどのように異なるのか、について実証的な検討を行う。そのことで、社会性障害の予防についての知見を累積する。

3. 研究の方法

(1) 支援カリキュラムの確定：コンサルテーションにおいて、参加者に提供する発達支援プログラムの内容は、これまでの研究(基盤研究(B)平成16~18年自閉症児への早期支援プログラムの構築のためのエビデンスベース研究)で開発された発達支援プログラムに基づいたもので、共同注意、喃語、模倣、言語理解、言語表出、機能的言語の獲得、学習支援、問題行動に対する機能分析、機能的コミュニケーション訓練から構成される。こうした内容について、テキストおよび動画を作成した。

(2) 参加者：社会性の発達に偏りの見られる乳幼児の保護者20名と、セラピストを目指す大学生20名、特別支援に携わる学校教員20名、障害児療育の専門家(言語聴覚士)1名が研究に参加した。

(3) 手続き：

障害児の保護者や療育の専門家に対してこれまで開発された方法で「行動コンサルテーション」を実施し、保護者や専門家、子どもの行動の変化を測定した。

家庭訪問セラピストやボランティアとして、社会性の困難をもつ子どもの支援に関わる大学生に対して短期集中ワークショップを行い、子どもに対する支援技法を効率的に教えるプログラムを評価した。

保護者グループに対して2週間毎8回から成るペアレントトレーニングを実施した。自閉症児の発達的特徴、支援方法の基本的な考え方、問題行動への対処、学習支援に関して全般的な知識を提供した。

学校教員向けコンサルテーション：特別支援学校教員を対象に、自分の担当している子どもの問題行動についてビデオ映像とアセスメントデータを示し、その行動の原因と対応策について検討した。

4. 研究成果

各種コンサルテーションの結果、子どもの個別的行動として、前言語(共同注視の基

礎となるアイコンタクト、追従視、参照視、指さしの理解、表出)、音声反応(自由場面と学習場面の音声反応レパートリー、音素、韻律、周波数成分、リズム、ピッチ幅)、模倣(他者の動作、物の操作、行動の連鎖、自己に向かう行動、表情、他者の音声)、言語理解(音声に対する絵や実物の選択反応、指示に対応した活動の生起)、言語表出(絵や実物が提示されたときに対応した音声反応や非言語的コミュニケーション行動)、機能的言語(要求言語、叙述言語、会話)、遊び(感覚運動遊び、機能的遊び、象徴遊びの認知的水準、および一人遊び、社会的遊びなどの社会的水準)、問題行動(こだわり、对人的過敏性、自己刺激行動、自傷行動、他害、パニック、注意の転動性、多動性)について改善が見られた。

保護者や専門家、学生、学校教員においては、精神健康度、ストレス尺度、療育に関する知識と技術などに改善が見られた。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 4 件)

宮田昌明・竹内康二・中島清貴、集団場面で不適切行動を示す児童におけるトークンエコノミーを用いた行動変容、LD 研究、査読有、印刷中

榎本拓哉・竹内康二、重度知的障害児へのビデオフィードバックを用いた行動支援-自由遊び場面での不適切行動の修正から-、明星大学心理学年報、査読無、32 巻、2014、19-23

宮田昌明・竹内康二、発達障害児の行動傾向と保護者のストレスの関係に関する研究、明星大学心理学年報、査読無、31 巻、2013、25-30

榎本拓哉・竹内康二、アスペルガー障害児におけるビデオセルフモニタリングによる不適切行動の制御-個別面接場面での逸脱行動の低減-、明星大学心理学年報、査読無、31 巻、2013、1-6

[学会発表](計 14 件)

Takuya Enomoto & Koji Takeuchi、Behavioral consultation to a special support school: From the increase in a behavioral repertoire、7th conference of the European Association for Behavior Analysis、2014、Stockholm University (ストックホルム、スウェーデン)

近藤鮎子・山本淳一、家庭訪問型 ABA セラピストの長期集中トレーニング: 子どもの反応からトレーニング効果を検討する、日本行動分析学会第 32 回年次大会、2014、弘前大学(青森県弘前市)

近藤鮎子・山本淳一、機軸行動発達支援法(PRT)研修会の普及モデル: 特別支援学校における 2 年間の実践から、日本特殊教育

学会第 52 回大会、2014、高知大学(高知県高知市)

Ayuko Kondo & Jun-ichi Yamamoto、The trainer-training of Pivotal Response Teaching (PRT) for students majoring pediatrics、The 40th Annual Convention of Association for Behavior Analysis International、2014、Chicago (USA)

近藤鮎子・山本淳一、家庭訪問型 ABA セラピストトレーニング: 3 ヶ月間集中訓練の効果、日本行動分析学会第 31 回年次大会、2013、岐阜大学(岐阜県岐阜市)

近藤鮎子・是村由佳・西野陽子・山本淳一、発達支援技術を向上させる 6 時間集中研修: 特別支援学校教諭が機軸行動発達支援法(PRT)を学ぶ、2013、日本特殊教育学会第 51 回大会、明星大学(東京都日野市)

Ayuko Kondo, Yuka Ishizuka, Natsumi Ishikawa, Yuka Koremura & Jun-ichi Yamamoto、Applying therapist-training of pivotal response teaching for speech-language-hearing therapists、The 39th Annual Convention of Association for Behavior Analysis International、Minneapolis (USA)

Masaaki Miyata & Koji Takeuchi、The effect of training program for parents of children with inappropriate behavior、The 39th Annual Convention of Association for Behavior Analysis International、2013、Minneapolis (USA)

Takuya Enomoto & Koji Takeuchi、Using video self-monitoring to improve complex discussion skills to children with PDD、The 39th Annual Convention of Association for Behavior Analysis International、2013、Minneapolis (USA)

ayumi Iwamoto & Koji Takeuchi、Support for a child with asperger disorder in inclusive education: improvement of inappropriate verbal behavior by self-monitoring、The 39th Annual Convention of Association for Behavior Analysis International、2013、Minneapolis (USA)

Aya Tsuchiya & Koji Takeuchi、Recognizing emotion in faces through interpreting of ambiguous information、The 38th Annual Convention of Association for Behavior Analysis International、2012、Seattle (USA)

Takuya Enomoto & Koji Takeuchi、Using video modeling to teach card game rule to children with autism: "concentration" and "baba-nuki (Japanese old fish)"、The 38th Annual Convention of Association for Behavior Analysis International、2012、Seattle (USA)

Masaaki Miyata & Koji Takeuchi、Analyzing functional verbal behavior of

child with autism in home setting、The 38th Annual Convention of Association for Behavior Analysis International、2012、Seattle (USA)

Masaaki Miyata & Koji Takeuchi、Application of Self-Monitoring and Token Economy System to Inappropriate Behaviors of Children With Developmental Disabilities、The 6th International Conference of Association for Behavior Analysis International、2011、Granada (Spain)

6. 研究組織

(1) 研究代表者

竹内 康二 (TAKEUCHI、Koji)
明星大学人文学部心理学科・准教授
研究者番号：00400605

(2) 研究分担者

山本 淳一 (YAMAMOTO、Jun-ichi)
慶応大学文学部・教授
研究者番号：60202389